

東近江の未来資本を太らせよう

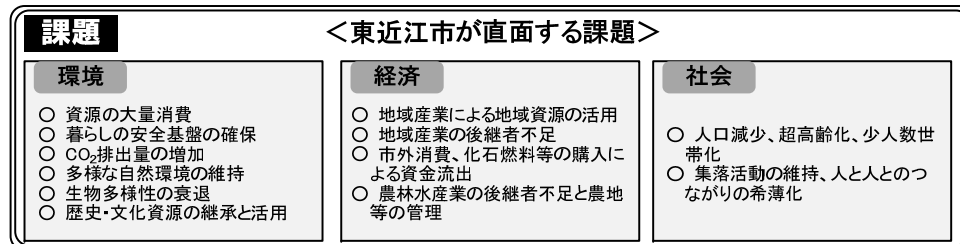


東近江三方よし基金

公益財団法人東近江三方よし基金常務理事

山口 美知子

行政計画と東近江三方よし基金②（第2次東近江市環境基本計画）2017年度



環境基本条例の理念（低炭素・資源循環
自然共生、歴史文化、生活環境、協働）
に沿った統合的アプローチ

目指す将来像

東近江市が持つ豊かな自然と市民の営みが有機的につながり、
市民が豊かさを感じる循環共生型社会

基本方針

「暮らし」、「社会の仕組み」の変革を主軸として、
市民・事業者・市の協働のまちづくりにより3つの基本方針を展開



事業連携から全庁横断的な政策連携の取組

鈴鹿山脈から琵琶湖まで一つの流域である自然資本をベースに、人と人、人と自然のつながりを生かし、環境・経済・社会の統合的向上により、市民が豊かさを感じる地域像を実現します。「地域資源」を活用して、市内だけでなく市外とも共生の関係性をつなぐ「地域循環共生圏」の実証事業に取り組んでいます。

●基本方針2 地域資源の見直し、保全・再生

～地域資源の見直し、保全・再生による地域の価値を高める地域づくり～

地域資源とは、

私たちの地域は、「自然資本」「人工資本」「人的資本」「社会関係資本」の4つの要素と、これらの中で育まれた「文化資本」で構成されています。これらを総じて「地域資源」と呼びます。

地域資源



●基本方針1 地域資源の活用

～地域資源の活用による豊かな地域づくり～

・市外へ自然資源・生態系サービスを提供
 ・食料、水、木を使った製品
 ・水源かん養、自然災害の防止など

・地域資源への投資

・市民の市内消費貯蓄の増加

・市外へ

・ものの、サービスの販売による市民の所得の向上

・市外から

・地域資源を活用したものの、サービスを生産

●基本方針3 地域資源をつなぐ仕組みづくり

～地域資源をつなぐ仕組みづくりによる循環共生型の地域づくり～

・市外から資金・人材などの受入
 ・自然保全活動への参加
 ・社会経済的な仕組みを通じた支援など

地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/>

東近江市総生産(／総所得／総支出)4,446億円【2013年】

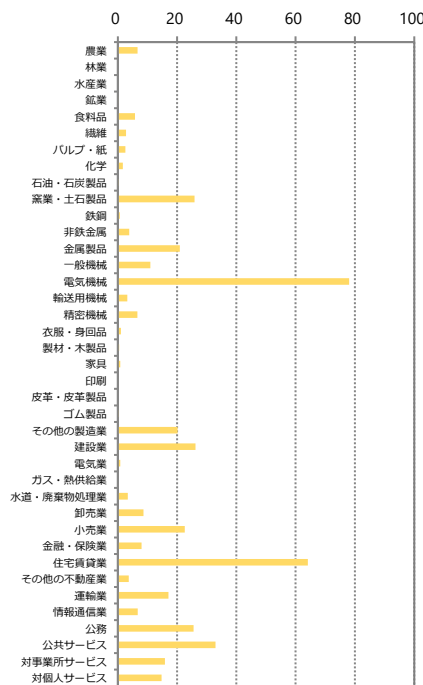
地域外

フローの経済循環

生産

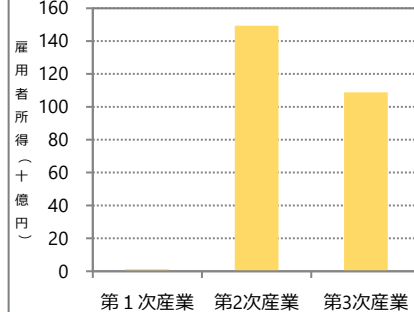
産業別付加価値額

付加価値額(十億円)

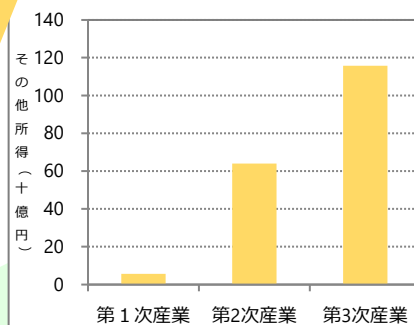


分配

雇用者所得(2,593億円)



その他所得(1,853億円)



注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、税金等が含まれる。

支出

消費

3,172
億円

域際収支

460

移輸出

5,284

移輸入

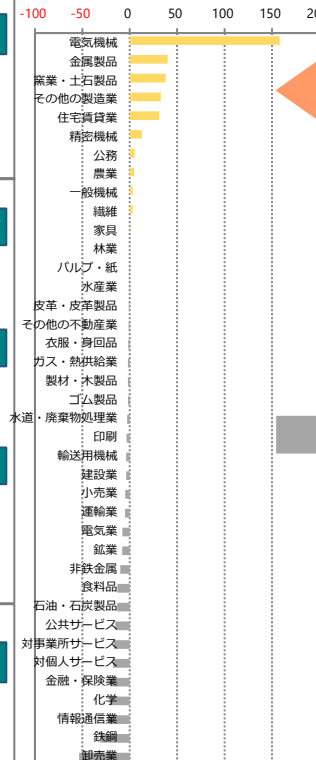
4,824

投資

815

億円

域際収支(十億円)



民間消費の流出：
約734億円
(消費の約23.1%)

所得の獲得：

電気機械、金属製品、窯業・土石製品、その他の製造業、住宅賃貸業、精密機械、公務、農業、一般機械、繊維、

エネルギー代金の流出：
約294億円 (GRPの約6.6%)
石炭・原油・天然ガス：約68億円
石油・石炭製品：約131億円
電気：約77億円
ガス・熱供給：約18億円

注) 石炭・原油・天然ガスは、本データベースでは鉱業部門に含まれる。

民間投資の流入：
約31億円
(投資の約3.8%)

金融機関等

自然資本(環境)

人的資本

人工資本

社会関係資本

地域資源ストック：フローを支える基盤

注) 消費＝民間消費＋一般政府消費、投資＝総固定資本形成(公的・民間)＋在庫純増(公的・民間)

資金循環におけるベースの考え方

Point①地域資源を活用して魅力向上

- ・ 歴史文化遺産の磨き上げ
- ・ 地域の人財の磨き上げ
- ・ インフラの有効活用

Point②地域資源を再評価し保全・再生

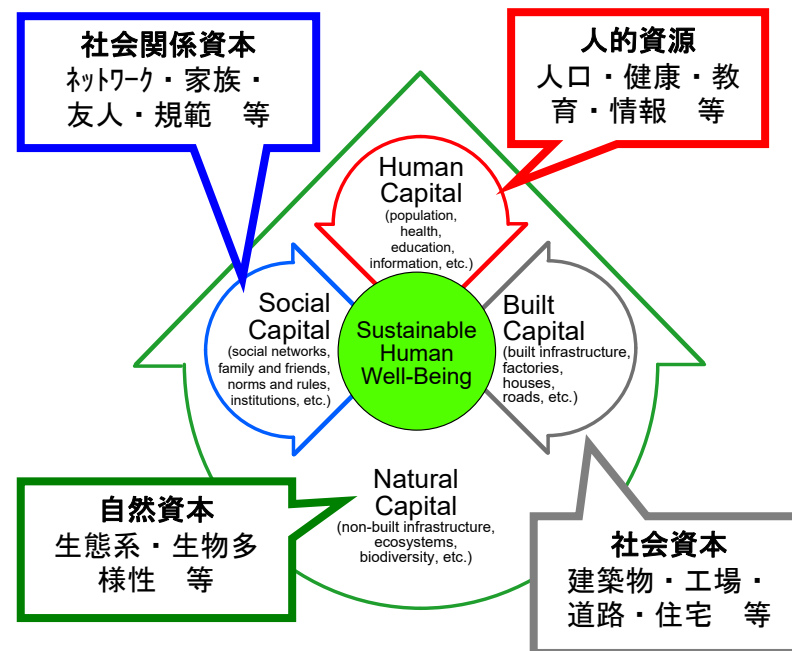
- ・ 森林、河川の保全・再生
- ・ 生活弱者対応と地域共生の仕組みづくり

Point③ソーシャルキャピタルの醸成

- ・ 市民意識変化による社会変革
- ・ セーフティーネットの構築



自然環境をベースにそれらを保全し活用する取組
人と人・人と自然をつなぐ取組



資金循環に係る東近江三方よし基金の役割

①外から調達

寄附・出資
休眠預金
公的資金



③地域で回す
信金預貸率40%の改善
タンス預金の循環

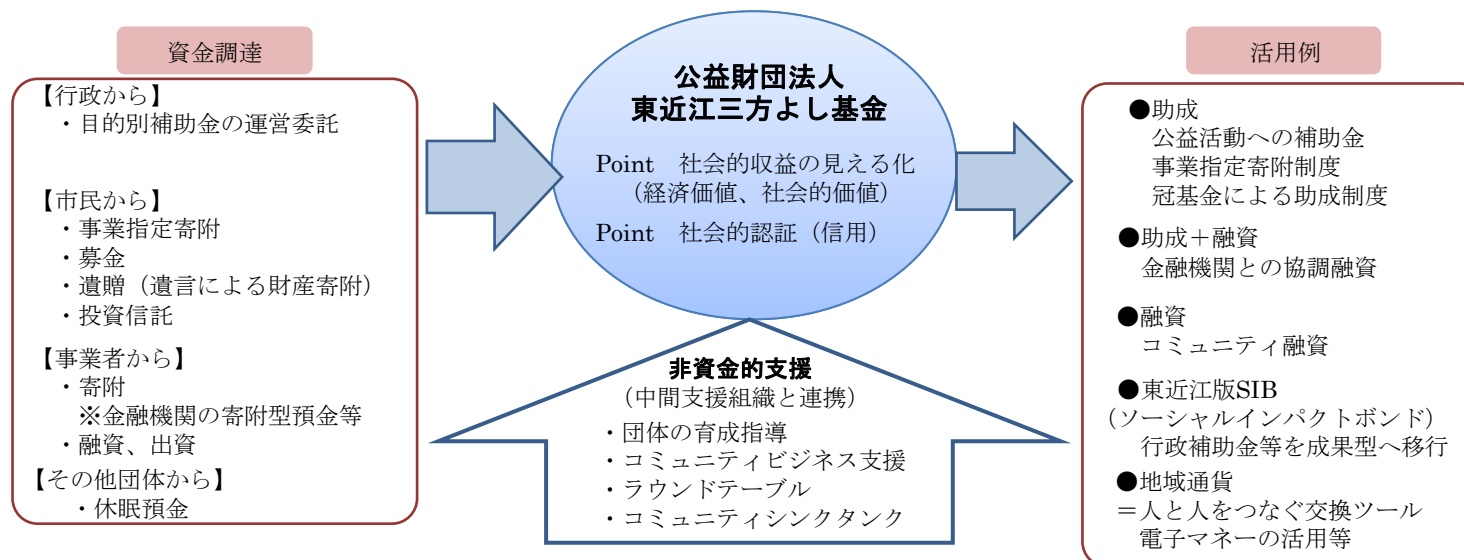
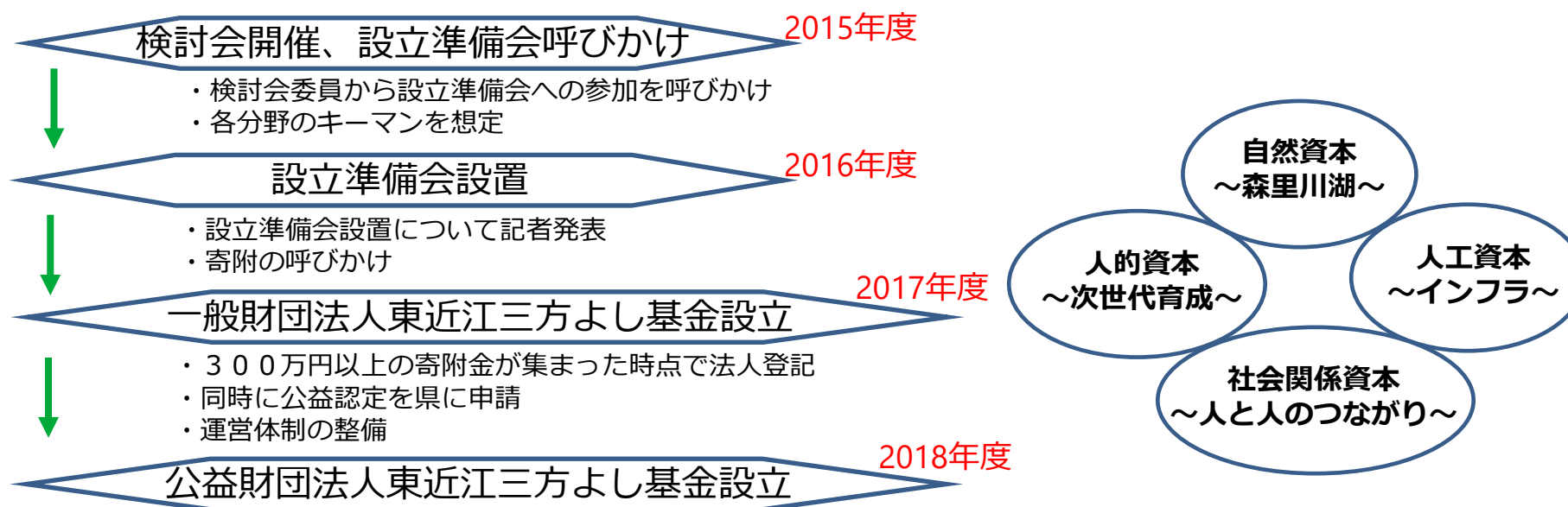
②流出を止める

消費の流出約700億円
相続による流出？億円



商店の魅力向上
地元消費の喚起
遺贈寄付の普及

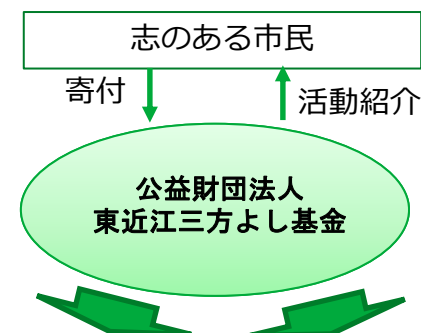
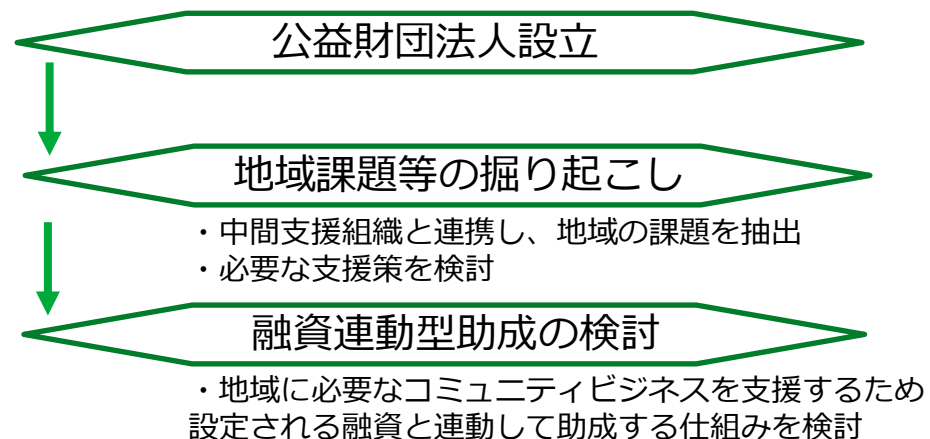
基金設立に向けて





コミュニティ助成

地域課題の解決に必要なテーマを設定し、助成する仕組み（単独助成、融資連動型）を検討する。
団体寄附等を活用した「自然環境を生かした新・近江商人応援事業」を開始。



コミュニティビジネス支援 地域活動へ活用
(金融機関の融資に連動)
※審査等に協力

【基金の役割】

- ・ 環境、経済、社会の評価軸
- ・ 寄付募集の働きかけ
- ・ 地域課題から新たな支援策を検討
- ・ 金融機関と連携する融資連動型の助成を検討

コミュニティ助成



東近江の 森と人をつなぐ あかね基金

2019年度
助成事業募集



2019年度 5事業 総額1,500千円
2020年度 6事業 総額2,100千円

社会	地域密着度（地域の自然と人と関わる時間）	人・時間
経済	地域経済への貢献度 （地域内循環額、地域外流出阻止額）	万円
環境	環境への配慮度 （里山保全、再エネ、省エネ、CO ₂ 排出削減量）	KgCO ₂

一般社団法人 TeamNorishiro	山主と"働きもん"の コラボレーション事業	高齢化する森林所有者から、搬出したいが体力的に厳しいとの声が聞かれるようになったことから、地域で引きこもり等働くことに少しの工夫が必要な「働きもん」と呼ばれる人たちに間伐材の搬出作業を実施してもらう試行事業を行う。 ・一般社団法人TeamNorishiro：事業全体コーディネート・東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-”：働きもんの作業分割と就労サポート・一般社団法人kikito：間伐材の買取および商品化
さとやま Nannies	さとやまNanny プロジェクト2021	東近江市内で里山保育を実施する保育園を増やすため、指導員を育成するプログラムやその必要資材を作成する。乳児を持つお母さんもいるため、室内にいる乳児、外遊びをする子どもと、0～1歳児を共にケアする場面を想定。託児専門家のサポートを受けながらスタートを想定。里山保育のノウハウを生かした自主保育園への展開と森のようちえんへの展望を視野に入れた試運転とする。



休眠預金を活用した助成事業

①新型コロナウイルス緊急対策活動支援事業

成果報告会オンライン配信 (YouTube)

<https://youtu.be/xyqXJdrJi7s>

【事業の概要】

新型コロナウイルスの感染拡大は、地域の暮らしを支える活動を止め、人のつながりを分断し、地域の持続性を脅かしている。その影響は、全世代、全分野に及んでいる。この状況を打開するため、東近江市全体を対象とし、特定のテーマではなく当たり前にあった統合的なつながりを意識し、自治によるまちづくりを取戻すため2つのテーマ（1. 生活弱者への支援活動とその体制強化、2. 地域の雇用を維持・確保するための民間事業支援）で助成事業を公募し、感染症と共存しながら暮らしを支える活動の体制強化と人と人のつながりを社会的・経済的・環境的に可能とする持続可能な地域社会の実現を目指す。

【資金分配団体としての採択金額】

60,000,000円（実行団体への助成上限額50,000,000円）

○実行団体公募 2020年8月5日～8月31日 ○応募団体数 10団体

○選考会 2020年9月12日 13時から18時半

○選考委員

堀田 聡子	（慶応義塾大学大学院教授）
江波 千佳	（江波千佳税理士事務所所属税理士）
植木 敏生	（湖東信用金庫営業推進部長）
金 再奎	（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター専門研究員）
久田 哲哉	（東近江市企画部総合政策担当部長）

○選考基準 ガバナンス・コンプライアンス、事業の妥当性（緊急性含む）、実行可能性、継続性、先駆性（革新性）、波及効果、連携と対話

コミュニティ融資

湖東信用金庫・公益財団法人東近江三方よし基金 連携制度融資「ビーナス」

公益財団法人三方よし基金と湖東信用金庫は、東近江市において、社会・経済や、地域にとって必要である公益性の高い事業を行う事業者様を応援します。融資を希望する事業者は、公益性評価に関する申請を東近江三方よし基金に行い、その報告書と共に湖東信用金庫に融資申込を行う。一定基準以上の評価を得た事業者にのみ融資を実行する。この制度融資に関しては、一部基金が利子補給を行う。

<公益性評価基準>

ガバナンス・コンプライアンス

事業の妥当性

実行可能性

継続性

環境の視点

地域経済の視点

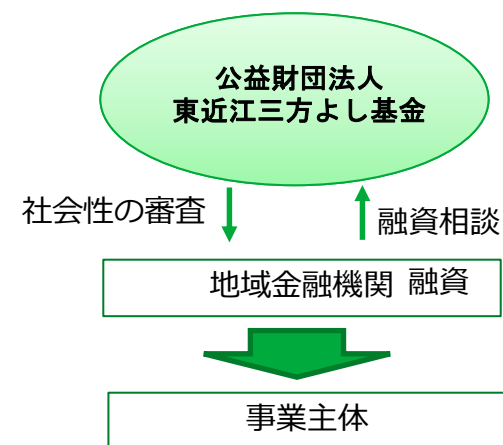
社会課題の視点

波及効果

連携と対話



東近江市永源寺相谷熊原遺跡出土
「縄文のビーナス」



社会	地域密着度（地域の自然と人と関わる時間）	人・時間
経済	地域経済への貢献度 （地域内循環額、地域外流出阻止額）	万円
環境	環境への配慮度 （里山保全、再エネ、省エネ、CO ₂ 排出削減量）	KgCO ₂

【基金の役割】

- ・ 環境、経済、社会を含む公益性評価
- ・ 成果目標達成のための伴走支援
- ・ 利子補給

支援事例

団体名：愛のまち合同会社

事業名：スーパー再建による持続可能な地域課題の解決

公益性評価のポイント：

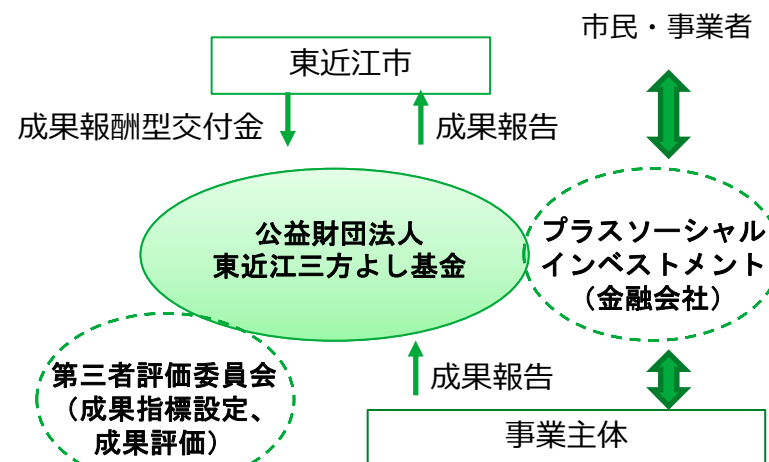
地域の課題を的確にとらえ、今だけでなく将来の地域の不安も解消しようとする素晴らしい取り組みである。地元食材の調達など環境への貢献も期待されるとともに、地域の雇用創出など地域経済への貢献についても考慮されており、公益性の観点からも高く評価できる。

融資額：500万円



東近江市版ソーシャルインパクトボンド（SIB）

既存の行政の補助金等を成果報酬型に変えることにより、政策実現の可能性を高める。成果が評価されるまで、必要な資金を基金と協働で調達することにより、市民の応援団を増やす。補助金改革の一助とする。



【スケジュール概要】

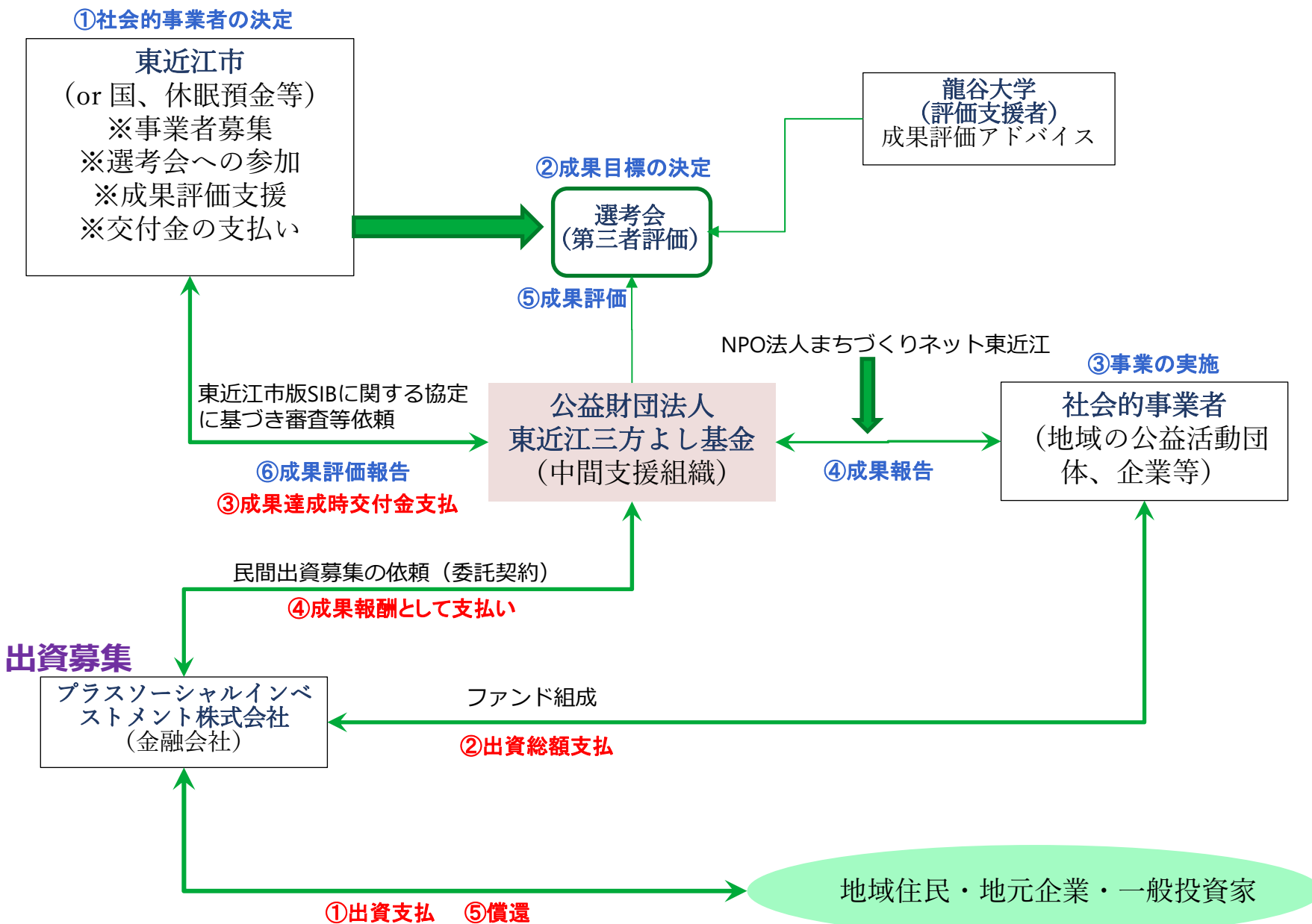
- 4月～5月 事業公募（市）
- 6月 選考委員会&成果目標設定（基金）
年3回事業者相談会にて伴走支援（基金）
- 7月～8月 出資募集（金融会社）
- 9月 事業者への資金提供
- 11月 出資者交流会（基金）
- 2月 成果報告書提出（事業者）
- 3月 成果評価委員会、成果報告会（基金）
- 3月 出資金償還（市→基金→PSI→出資者）

【実績】

- 事業数 19事業（2016年～2020年度）
- 出資募集総額 13,130千円
- 出資者累計 349件

【基金の役割】

- ・ 中間支援組織として仕組みをコーディネートする。
- ・ 既存事業で対象となった事業体へ、外部からの資金調達を支援する。
- ・ 第三者評価委員会を設置し、成果指標の設定、成果評価を行う。
- ・ 評価結果を外部資金提供者および行政に報告する。
- ・ 成果を評価したのち、行政資金等を外部の資金提供者に利子付きで償還する。



平成30年度事業概要（コミュニティビジネススタートアップ支援事業）

東近江市から始まる新しい子育てシステムづくり ぐるりの家

親子で通う様々な経験のできる場所の提供とマイ助産師制度の構築により、保護者間の交流促進、育児不安や孤独感の軽減し、女性の新しい働き方を考える機会につなげる。

平成30年度末の成果目標

- ・8種類のイベントを企画開催する。
- ・イベント等への参加者に対しアンケートを実施し、ニーズ調査を行う。
- ・オリジナルの子育てシステムを、次年度から運用できるよう構築する。



政所茶の販売拡大・ブランディング

政所茶生産振興会

政所茶の販路拡大と、政所茶のブランディングを行うことにより、生産者の生産意欲を向上させ、政所茶の生産拡大を目指す。

平成30年度末の成果目標

- ・生産コストの3倍の価値で購入してくれる人を獲得するためのアンケート調査を実施する。
- ・政所茶の特性を生かしたモニタリングツアーを実施する。
- ・政所茶を取り巻く物語を情報発信していけるウェブサイトの開設を行う。



平成30年度基金独自で課題設定した東近江市版SIB

地域で育む子どもの居場所づくり 東近江市社会福祉協議会

様々な地域資源と組み合わせた子どもの居場所づくりを通じて、貧困や障害等様々な理由で孤立している子どもやその保護者と地域をつなぐことを目指す。

平成30年度末の成果目標

- ・つながりの増加：関係者にアンケート調査し、事業実施前より知り合いや友人が増えている。
- ・団体の状態の変化：相談できる人が周りに増えている。
- ・地域の状態の変化：世代や障害・貧困の有無に関わらず、子どもの居場所が提供されていることを知っている人が増えている



世代を超えてつなぐ就労支援 サマーの会 ～子どもの未来を語る会～

障がいのある子どもと保護者の未来を応援するプロジェクト。保護者の悩みに向き合う勉強会の開催や子どもが地域で当たり前で暮らせる仕組みづくりについて考える。

平成30年度末の成果目標

- ・つながりの増加：保護者にアンケート調査し、事業実施前より知り合いや友人が増えている。
- ・団体の状態の変化：相談できる人が周りに増えている。
- ・地域の状態の変化：世代や障害・貧困の有無に関わらず、就労の機会が提供されていることを知っている人が増えている



○「質」的变化に注目した成果目標を設定

- ・つながりの変化、実施団体の変化、地域の変化を見える化することにチャレンジ

○成果の見える化は、実施団体のモチベーションを上げることに貢献する

基金独自で課題設定した東近江市版SIB

働くマインド育成プロジェクト（厚労省）

TeamKonQ（チーム困救）

福祉の現場で働く若者に注目し、働く意味や価値について考える「マインド勉強会」を開催します。勉強会から得た気づきを共有する場を作り、そこから生まれたコトバを見る化し地域に広げること働く意味を知る若者の増加を目指します。

令和元年度末の成果目標

- ・勉強会により参加者が、気づきを獲得している。
- ・課題解決思考ではなく、価値創造思考ができる「共感できることコトバ」を獲得している。
- ・価値創造思考でとらえなおした事例が見える化できている。



ガリ版伝承によるまちづくりプロジェクト（国交省） 一般社団法人がもう夢工房

蒲生地区を拠点に活動する一般社団法人がもう夢工房が、ガリ版の歴史や文化を継承、次世代へつなげていく拠点の整備を行います。その第一弾として、蒲生岡本町の空き家の一部を改修します。

令和元年度末の成果目標

- ・地域の方を対象にした意見交換会等を開催し本事業の周知を図ること。
- ・全体構想には、ビジネスプランの具体策を明記する。
- ・ガリ版技術等の伝承を担う専門事務官を設置すること。
- ・工房として活用できるよう空き家のリノベーションを完了すること。



小さな自然再生と絶滅危惧種の川ガキの復活！（環境省）R3最新事例

NPO法人里山保全活動団体遊林会、愛知川漁業協同組合

東近江市版SIBの仕組みを、小さな自然再生（河床耕耘や魚道整備等）に活用するための実証事業を行う。地域住民や企業の出資により、当事者意識や防災意識の向上に貢献し、自然に親しむ意識の醸成につながることを実証調査する。



そとイコ「川ガキ育成塾」のプログラムづくりプロジェクト



特定非営利活動法人 里山保全活動団体遊林会は、東近江市にある愛知川河辺林で里山の保全を目的に活動しています。本プロジェクトは、愛知川流域における小さな自然再生の取り組みとして、川で遊ぶ子どもたちを育成する「そとイコ」プログラムの開発を行い、試行します。川のいきものをつかむエコツアーズやアユの産卵床づくりの体験会を開催します。また、河辺いきものの森の川辺付近で「バーブ工」を設置し、河川環境を改善させます。市民の方に、開発したプログラムを通して川への意識の高まりをつくり、地域の社会的資本である川と森の存続を目指します。

簡易魚道の見試して大人の川ガキづくりプロジェクト



愛知川漁業協同組合は、愛知川を清流として復活させることを目的に川づくりを行う団体です。本プロジェクトは、愛知川流域における小さな自然再生の取り組みとして、愛知川支流洗川でビワマスの簡易魚道の見試し活動を行います。見試し活動から地域特性を活かした川づくりの技術を蓄積し、向上していきます。簡易魚道によりビワマスが見られる場所をつくり、川に対する市民の興味や関心につなげます。また、多様な機関と連携・協働できる体制を整えます。愛知川に対する市民の愛着心を高めることや、地域の自然の恵みを守り、育てることを目指します。

成果目標

- 1 来年度試行するプログラムが作成でき、体制（スタッフ・道具）が整っている。
- 2 事業効果の見える化ができている。
 - ・川との関係時間の増加（人数×時間）
 - ・遊林会スタッフの変化（川に対する行動・意識の変化、目的関数の増加）
 - ・試行プログラム参加者の変化（川に対する行動・意識の変化、ワクワク度の増加）

成果目標

- 1 簡易魚道の材料を整え、見試し活動を通して、地域内外の大人の川ガキが育成できている。
- 2 事業効果の見える化ができている。
 - ・愛知川との関係時間の増加（人数×時間）
 - ・愛知川漁協スタッフの変化（川に対する行動・意識の変化、目的関数の増加）
 - ・魚道の見試し参加者の変化（川に対する行動・意識の変化、ワクワク度の増加）
 - ・協働の川づくりの体制（パートナーシップの多様性）の見える化

平成30年度東近江市版SIB（厚生労働省モデル事業）

事業名：地域で育む子どもの居場所づくり

事業主体：東近江市社会福祉協議会（子ども食堂の支援窓口として）

様々な地域資源と組み合わせた子どもの居場所づくりを通じて、貧困や障害等様々な理由で孤立している子どもやその保護者と地域をつなぐことを目指す。

平成30年度末の成果目標

- ◆対象者のつながりの増加
 - ・事業実施前より知り合いや友人が増えている
 - ・子どもが信頼できる大人ができた。
- ◆実施団体の状態の変化
 - ・相談できる人が周りに増えている。
- ◆地域の状態の変化
 - ・子どもに関する課題を知っている人が増えている。
 - ・世代や障がい・貧困の有無に関わらず、子どもの居場所が提供されていることを知っている人が増えている。

○目標設定のポイント

- ・「質」的变化に注目し、つながりの変化、実施団体の変化、地域の変化を見える化することにチャレンジした。
- ・自らで調べる方法を企画し実施した。

取り組みの成果

◆本人のつながりの増加

事業実施前より、知り合いや友人が増えている

【アンケート結果より】

- ・約半数(162人中71人)の子どもたちが**友達が増えた**と回答
「普段交流のない子と接するのが楽しい」
「違う学年の知り合いが増えた」
保護者から見ても子ども同士のつながりの増加を実感
- ・**保護者自身もつながりの増加を実感**(39名 記述式)
「ママ友と話す時間が増えて嬉しい」
「地域に話せる人が増えた」



子どもが信頼できる大人ができた

【アンケート結果より】

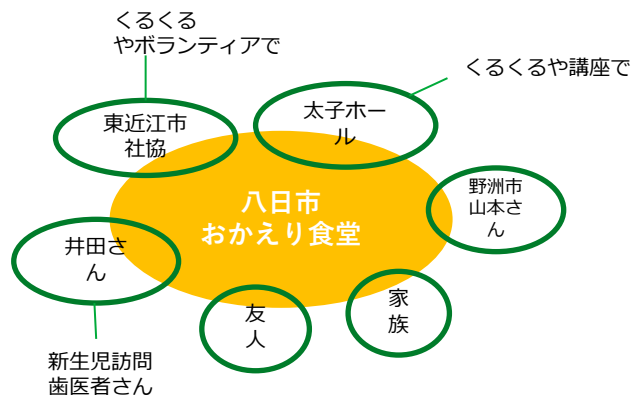
- ・約半数(162名中82名)の子どもたちが**家の人や学校の先生以外に話せる大人が増えた**と回答
「スタッフさんと話せるようになった」
「あいさつだけでなく、色々お話できるようになった」
「やさしい大人の人がいっぱい」
「宿題の分からないところが聞ける」

「本人に聞いてみよう！」
「子どもにアンケートを取るには…」



「やっててよかった！」
「こんな効果もあったんやね！」

子ども食堂を始める前



◆団体の状態の変化

相談できる人が周りに増えている

「おにぎりなら握れるよ！」
「子どもと遊ぶことくらいしかできないけど...」

現在



取り組みの成果

◆地域の状態の変化

地域の子どもに関する課題を知っている人が増えている

【アンケート結果（52名 記述式）】

- ・ 関心があり、気にかけている人は多いが、地域で子どもや子育て家庭との関りがなく、課題が見えにくいことが分かった。
 - 「子どもの数が少なく、子ども同士のつながりが少ない」
 - 「外国籍の子どものことが気になる」
 - 「子育ての状況が見えづらい」
 - 「子どもの貧困や不登校の増加」
- ・ 子ども食堂が対象を限定せず、子どもから大人まで参加でき、地域の人同士がつながる場として認識されていることが分かった。

「子ども食堂ってこんな場所やったんや。」

「近所でもねえ、気になる子がいるんよねえ。」

「余った食材を家まで届けるんですよ。たまにね。」

東近江市版 S I B に関わった人の声 事業者①



事業者：クミノ工房
井上慎也さん

今回の取組で一番良かったことは、出資者やいろいろな方とつながり、応援していただけたことです。人を紹介してもらったり、助けてもらったりすることは従来の補助金の制度ではできなかったことだと思います。

最初は投資してもらうのもためらいましたが、自ら出資を募れるくらいでないとだめだと思いました。また、投資していただいた方々の顔も思い浮かぶので、責任感も芽生えました。事業者をやる気にさせてくれる制度だと感じます。

東近江市版 S I B に関わった人の声 事業者②



事業者：NPO法人愛の
まちエコクラブ
園田由未子さん

社会的なことは行政だけがやるのではなく、NPO等の団体や市民、みんなが一緒にやっていくものだとなんか思っています。

従来の補助金制度では、領収書の確認など形式的な報告書を提出しますが、今回のような形式では、成果を達成すること以外で自由度が高く、事業者を信じて事業資金を託してもらっているため気持ちのいい制度だと感じました。

東近江市版 S I B に関わった人の声 民間投資者

従来の補助金制度では事業者にも何も口出しできませんが、今回のスキームは投資しているから言いやすいです。

投資額は大きくないですが、応援している事業者が成果を出してくれると自分の喜びになります。応援したりアドバイスしたりと、楽しませてもらっています。この地域で若い人たちが活躍してくれることが自分の喜びです。



民間投資者：
福田純子さん

社会的インパクトの意義



②共感が生む意識変化 →社会変革へ

→環境・経済・社会を客観的データで把握し、住民意識の変化を
見える化することで社会的インパクトを発信する基金へ

→社会的投資、ESG投資の獲得へ

循環共生型社会を実現するESG地域金融～東近江三方よし基金の事例から～

Environment & Social (人と自然、人と人のつながりの継承)

東近江三方よし基金では、環境（CO2、生物多様性）、経済（地域経済貢献度）、社会（人と自然・人と人のつながり時間）の視点で、分野を超えてつながるプロジェクトを支援

東近江市版SIB

Laque

マスカットベリーAを中心としたワイン用のぶどうの栽培や醸造技術の習得を行い、東近江市産ぶどう100%のワインを自家醸造・販売できる体制を構築することを目指す。



東近江市版SIB

MURASAKI no ORGANIC

万葉の時代から滋賀県東近江地域にある「紫草（ムラサキ）」を使ったオーガニックのスキンケアコスメ「MURASAKI no ORGANIC」を商品化。耕作放棄地の解消と山間部の雇用創出を目指す。



東近江市版SIB

政所茶生産振興

室町時代から続く有機栽培・手摘みの政所茶の継承を実現するため、付加価値の高い販路開拓、山村の丁寧な暮らし体験ツアー等を実施する。



社会的投資

市民共同発電所

市民出資で太陽光発電を設置し、その売電益は地域商品券で還元し、地域でお金を回す仕組みにつなげる。その一部を公益活動への寄附にあてる団体もある。



東近江市版SIB

がもう夢工房

空き店舗を改修して、地域の拠り所としてコガモカフェをオープン。着地型観光や人材バンク、子ども食堂など、地域の拠点として活用。定期的にマルシェを開催し、地元野菜や果物を販売。



東近江市における社会的投資推進に関する協定締結（2018.11.16）

湖東信用金庫 (地域金融機関)

- ・地域の社会的投資商品の紹介
- ・東近江三方よし基金の理念に貢献する起業・創業提携融資を検討

公益財団法人 東近江三方よし基金 (基本財産は772名の志民寄附)

H29.6.12設立→H30.7.2公益認定
東近江市版SIB事業
(地域の社会的投資による成果連動補助金)
自然環境を生かした新・近江商人応援事業
(寄附を活用した起業・創業支援助成) etc

プラスソーシャルインベ ストメント株式会社 (第二種金融商品取引業者)

- ・社会的投資の案件組成
- ・社会的投資のためのプラットフォーム設置・運営

・普及啓発

東近江市・事業者募集及び交付金支払・評価委員会に参加

社会的事業への資金調達支援に関する協働協定書（2017.6.20）

新プロジェクト

獣害を防止するため雑木林を伐採し更新するため、雑木を薪として販売し、エネルギーとして利用する仕組み。薪割作業を地域の働きづらさを抱える若者らの中間的就労の場となる。



Local Governance (共に考え、共に創る 地域自治の継承) 中間支援組織：NPO法人まちづくりネット東近江との連携

東近江三方よし基金では、市、中間支援組織と連携して多様化する地域の課題を発見・共有し、共通価値を創出する自治のあり方を継承

- ✓地域自治の基本となる課題発見能力と共感力（小さな夢やSOSを見落とさない関係性の構築）
- ✓気づきから行動、そして仲間づくりへのサポート
- ✓一粒で二度も三度も美味しい、をベースにした地域「総働」の実現

【NPO法人まちづくりネット東近江】

Vision：誰もがまちの創り人（つくりて）となる社会を目指して

Mission：思いを形にしたい人達のあゆみに寄り添う

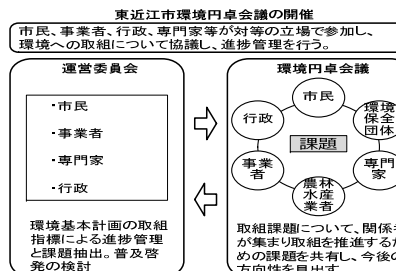
新たな課題

コレクティブインパクト事業
利害関係者が多く、複雑な課題について取り上げ、課題の共有から協働プロジェクトの創出、課題の解決に導くためのチャレンジ。
ラウンドテーブル運営委員会と連携する。
実績：①イヌワシの棲む森づくりプロジェクト 等



プラットフォーム

東近江市環境円卓会議
環境・経済・社会の視点で、分野を超えてつながるプロジェクトを普及すると共に、環境基本計画の進捗管理も担う。新たな地域課題を深め共有する場を設定する環境円卓会議を運営する。



人材育成

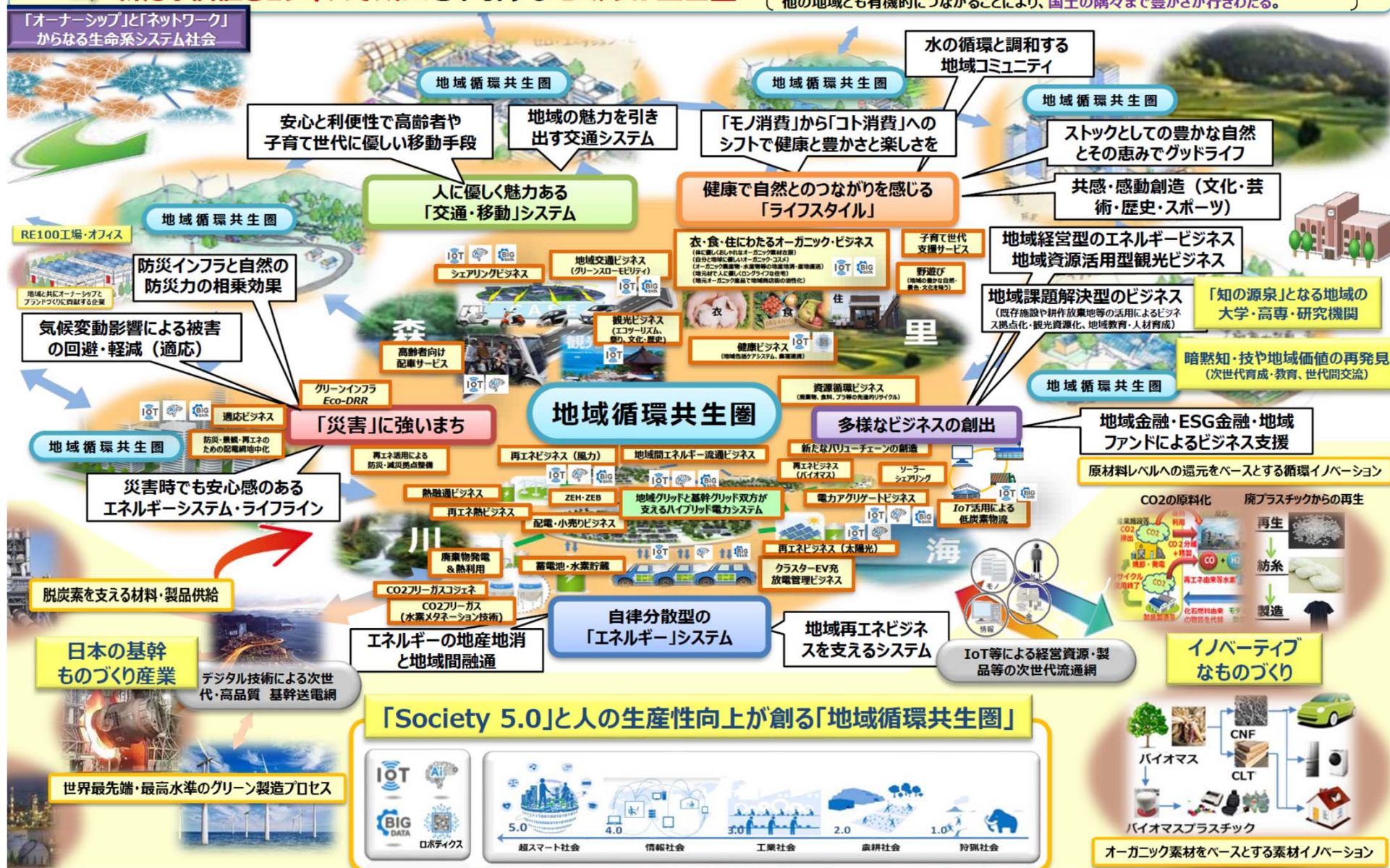
地域ブランディングの本質
東近江市で暮らし続ける地域ブランディングを実現するため、市民が主体的にまちに関わろうという前向きな気持ちを育む人材育成について行政、市民、企業、教育機関等が議論し具体策を検討する。



ー サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム ー

➡ **新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤**

人々が健康で生き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることにより、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。



現時点での地域版マンドラ

